

□□レイヤとクラスの設定 (教科書VectorWorks + Design 2-1 P.072-075参照)

レイヤは、透明なフィルムに描かれた線の集まりのようなものです。  
これを重ねて描く、という考え方をすることにより、たくさんの線を管理しやすくします。  
VectorWorksでは、様々な縮尺の図面をレイヤで管理することも可能です。

クラスは、線の太さや形状などの情報をとりまとめたものです。

CADによっては、レイヤとクラスとの考え方をあわせて、一括りで「レイヤ」と呼ばれている場合があります。現段階では、「レイヤ」の使い方をマスターした上でとクラスも併用していきます。

※ クラスの使用は、任意とします。

- ・ レイヤ分けは、以下の通りにしてください。

ツールメニューバー ⇒ オーガナイザ ⇒ デザインレイヤ

「図面枠」	:: :: 縮尺 1:1	図面枠と、名前などはこのレイヤにしてください。
「中心線」	:: :: 縮尺 1:1	中心線はこのレイヤにしてください。
「外形線」	:: :: 縮尺 1:1	外形線はこのレイヤにしてください。
「見えがかり」	:: :: 縮尺 1:1	折れ目など、見えがかりの線はこのレイヤにしてください。
「かくれ線」	:: :: 縮尺 1:1	かくれ線はこのレイヤにしてください。
「寸法線」	:: :: 縮尺 1:1	寸法線はこのレイヤにしてください。
「文字」	:: :: 縮尺 1:1	図面枠に記入するものを除く文字はこのレイヤにしてください。

その他、各図面の種類に応じて設定していきます。

- ・ クラス分けは、以下の通りにしてください。(※クラスの使用については任意とします。)

ツールメニューバー ⇒ オーガナイザ ⇒ クラス

※ 「1 : 2 : 4」は線の太さの比率を表します。

「0.13mm_一点鎖線」	線の太さ : 0.13mm	線の属性 : 一点鎖線	→ 中心線に使用
「0.13mm_実線」	線の太さ : 0.13mm	線の属性 : 実線	→ 寸法線に使用
「0.08mm_実線」	線の太さ : 0.08mm	線の属性 : 実線	→ 見えがかりに使用
「0.13mm_破線」	線の太さ : 0.13mm	線の属性 : 破線	→ かくれ線に使用
「0.25mm_実線」	線の太さ : 0.25mm	線の属性 : 実線	→ 外形線に使用
「0.50mm_実線」	線の太さ : 0.50mm	線の属性 : 実線	→ 図面枠に使用

※クラスを使用する場合は「属性パレット」はすべてクラススタイルにしておきます。  
プリンターとの相性もありますので、印刷しながら調整が必要となる場合があります。

次に、以下を参照して寸法スタイルを設定し、この図面に寸法を入れます。

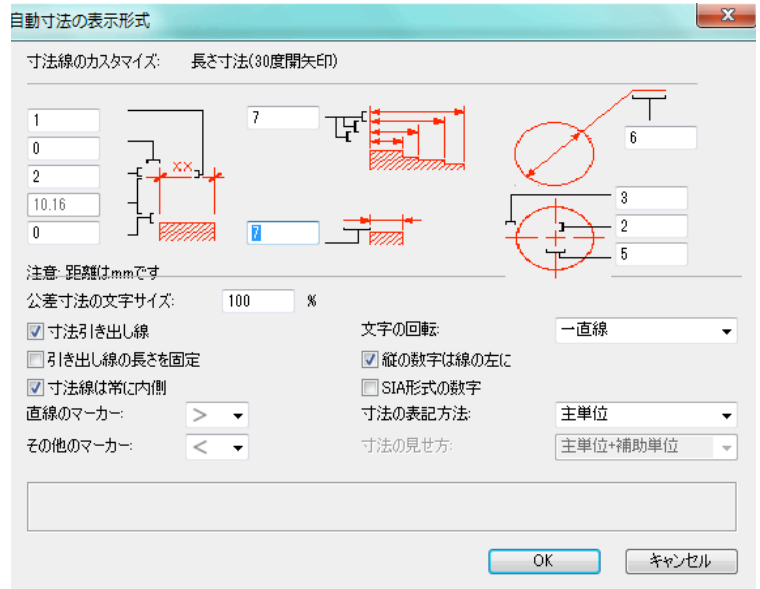
- 寸法規格の設定 (教科書VectorWorks + Design 1-5 P.049-050  
プロダクトデザインのための製図 P.23-28参照)

寸法規格の設定に関する補足です。「長さ寸法(30度開矢印)」という寸法規格を作成してください。

### 1. 「プロダクト」※長さ寸法(30度開矢印)

ほぼ JIS の寸法設定のままで結構ですが、「寸法線は常に内側」にチェックを入れてください。

- ・ ファイル  
↓
- ・ 書類設定  
↓
- ・ 画面/寸法/解像度  
↓
- ・ 寸法のタブ



- 図面内の表記内容

**8 × R3**

- ※ **8×R3** の 8 ⇒ 総数を表す。
- ※ **8×R3** の R3 ⇒ 半径 3を表す。

※

**注** 現在の最新の JIS では「 - (ハイフン)」ではなく「×」を使用します。

- 宿題

配布した「カドケン」の図面をトレース (同じように描くこと) してください。  
学籍番号、氏名等を記入し、A4 で出力をした状態で提出して下さい。

また、授業中に作成した課題図(4葉)も宿題と一緒に左上を 1 箇所ホチキス留めして提出して下さい。